

## 日本学術振興会の拠点大学方式による学術交流事業

生物試験部門教授 渡辺 裕司

日本学術振興会が行う事業の一つに、我が国とアジア諸国との二国間あるいは多国間で、特定の研究分野及び研究課題を対象として、拠点大学方式による学術交流があります。

平成13年度から富山医科薬科大学（和漢薬研究所）がタイ国との学術交流を行う日本側の拠点大学となりました。事業は、我が国及びタイ国に共同研究の中核となるそれぞれの拠点大学を設け、そこを中心に研究に参加する協力大学及び個々の共同研究者からなるグループを両国で形成し、研究者の相互派遣による共同研究やセミナーの開催等を実施しているものです。平成2年度から11年度までの10年間、東京大学薬学部を日本側拠点大学としてタイ国との学術交流事業が行われ、本学は協力大学として活動してきました。

平成13年度から本学が拠点大学として実施する事業の概要を以下にを紹介します。

日本側拠点大学：富山医科薬科大学（和漢薬研究所）

協力大学：千葉大学（大学院薬学研究院）

東京大学（大学院薬学研究科）

明治薬科大学

北里研究所附属東洋医学総合研究所（北里大学生命科学研究所）

岐阜薬科大学

名古屋大学（大学院生命農学研究科）

広島大学医学部（総合薬学科）

九州大学（大学院薬学研究院）

タイ側拠点大学：チュラロンコン大学薬学部及びチュラボン研究所

協力大学：マヒドン大学（薬学部、以下全て同じ）

チェンマイ大学

プリンスオブソンクラ大学

コンケン大学

シラパコーン大学

スリナカリンウィロー大学

ウボンラチャタニ大学

マハサラカム大学

ベトナム国立伝統医学研究所


ベトナム国立薬物研究所

研究分野は薬学で、天然薬物に関する共同研究を目指しており、研究課題は次のような6課題を設定しています。

1. 老人性疾患の予防と治療に有用な天然薬物の研究
2. アレルギー性疾患及び癌の予防や浸潤・転移を抑制する天然薬物の研究
3. エイズや肝炎に有効な天然薬物の研究
4. マラリアに有効な天然薬物の研究
5. 天然薬物の構造・合成・活性発現の分子機構の研究
6. タイ産薬用植物成分の生合成に関する分子生物学的とバイオテクノロジー研究、及びタイ産薬用植物のデータベースの確立

平成13年度にタイから日本へ受け入れた研究者は合計27名、日本からタイへ派遣した研究者は合計18名でありました。本学術交流では3年目にあたる平成15年度にバンコクでジョイントセミナーを開く予定になっています。

以上



読売新聞 2001年3月20日

朝日新聞 2001年3月22日